



八女市馬場 栗原 廣子

は 物に見るが大きい大きい大きいかける 留野

し見皆まとが法 菜や芸 いに色こ ます。ように描いたなど と 会会 ときき で魔 いし作ら O

> 10л8в(д-#) 0a14a(a)

野鳥ウォッチング ④

ハヤブサ



ハヤブサの体形は、タ カに似ている猛きん類で

カモやハト等の獲物を 見つけると急降下して捕

古来、たか狩りに使わ れていたようで「ケー・ ケー・ケー」と鳴きます。 矢部村 栗原 浩暢

矢部川源流•杣の里の四季 84 オトコエシ(男郎花)と

オミナエシ(女郎花)[オミナエシ科]





名前の由来は、語尾のエシはメシ のことで、オミナエシは女飯であり、 これは黄色の花を粟飯に見立てての 名であり、それに対してオトコエシ の白い花を白飯、白米にたとえてオ トコメシとしたものであるという説 がある。花期は8~10月

「ひょろひょろとなお露けしや女郎 花」芭蕉

健康よもやま話



姫野病院:松浦 緑郎 (健康管理士一般指導員)

■ 働く女性の体の変化

女性の体が男性のそれと根本的に違う点は生理があ るということです。生理とは月に1度、子宮内に厚い 膜をつくり、それが壊れて剥がれ落ちる現象で、その 膜は血で作られた柔らかいベッドです。月に1度、受 精卵を置いてあげるためにベッドが用意されるのです。

神様は人類を滅亡させないために女性に年間 12回く らいのチャンスが必要と考え、女性の体内に28日周期で受精卵のための柔

らかい血のベッドを作って受精卵を待たせることにしました。 しかし、いくら待っても受精卵がこないと、諦めてベッドを壊して流しま す。この"流す"という現象が生理で、翌月になるとまたいっぱいの血を集 め柔らかいベッドを作って受精卵を待ち、こないとまた流す。

卵巣と子宮はこうした行為を延々と繰り返し、生涯で1度も妊娠しない人 は年間 12 回、30 余年、およそ 400 回も、毎月作ったベッドが受精卵を待 つだけで終わることになります。人類はこうした女性の体内の、神秘で精妙 な営みのおかげで滅亡せずにきたのです。

ところで、女性の社会進出が著しい現代にあって、最近は結婚しない、子 供もつくらないという女性が増えています。この現象を生理的な面から見る と先ほどのベッドを空転させていることと同じです。このような自然の摂理 に反した状態が続いた結果、これまではあまり目立たなかった月経異常や月 経痛が、さらには子宮内膜症や子宮筋腫などの病気が増えてきたのです。

つまり、これらの病気は急速に近代化した社会背景をもとに、女性が家の 外で働くことが多くなったことに加え、子供をあまり産まなくなったことと 決して無関係ではなく、広い意味で一種の文明病と呼んでもいいかもしれま せん。

つまり、文明化にともなうライフスタイルの変化のしわ寄せが、働く女性 たちの生理に影響を与えている、というわけです。

八女農北山農場で小学生が農業体験 八女農業高等学校

立花地区の小学生が年間を通してさまざまな体験活動を行う「夢たちばな 子ども体験塾」を、八女市立花支所の主催で8月24日本校北山農場で実施 しました。立花小学校と筑南小学校の児童合わせて47名が参加しました。

1・2年生20名はバター作り、牛のブラッシングや子牛の心音聴き、ポ ニーの乗馬、ヤギ・ウサギとのふれあい体験をしました。3・4年生 19 名 はお茶の飲みくらべや鶏舎見学、本校の鶏卵を使ったマヨネーズ作り、卵か らヒヨコ誕生までの命の観察をしました。5・6年生8名は山歩きとクリ拾 い、ナシ・ブドウの収穫と糖度測定、ドローン操作やトラクター・乗用モア の運転などを体験しました。本校生徒が先生役となり、体験活動の説明や指 導を行い、小学生と楽しく交流しました。

この農業体験を通して、子どもたちは農業の楽しさや食・命の大切さなど、 多くのことを学ぶことができたと思います。









バター作りと試食

−の乗馬

ウサギとのふれあい







10月の校内販売所(八女農みらい館)の開館日

2日火、5日金、12日金、16日火、19日金、23日火、26日金、30日火 販売時間は、10時30分~15時30分です。

黒木町 松尾 重根 多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。

それは神との交流を図る場で る「神との交流」にロマンを れているという。 あると、いつか国文学教授の 遠い古代から受け継がれてい 記や万葉集にもそれらは示さ 上野誠氏が説いていた。古事 ること、または神と対話する 人を人が演ずることであり、 この忙しく煩雑な時代に、 神楽とは人が神の姿を演ず もも大人も自分達が主役だっ やる人がいずに消えてしまい せわしい時代に、受け継いで 保護で今苦労しているのは実の言葉を思い出した。文化財 点この田島・笹丘地区は子ど そうな祭が多いのだと。その は物より祭だと。この誰もが ある市の文化財保護課の

族無形文化財となっている田ていると、この祭は福岡市民長やら区長やらの挨拶を聞い 年この時期に皆で練習して なんと近所の人達だった。刀 を見せる。舞っている氏子は していた人達に尋ねると、毎 が続いた。後日、氏子に扮装 子・・・と、五穀豊穣を願う舞 水をまく氏子、米を持った氏 (のような)を持った氏子、 まった神楽は雅楽とともに舞 島神楽だという。そして始 カメラや来賓の方々が多いの 行ってみた。すると、テレビ るのだという。 にびっくり。何事?と、教育 に行くというので私も初めて 区外に住む友人がわざわざ見 近所の神社の祭の幟が立つ。 引っ越して3年。